

平成 28 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成29年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 15 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を介護理念に掲げ、利用者様間や職員も加えた仲間内でお互いに助け合える、協力し合える雰囲気を日々の生活に自然に取り入れております。  
必要とされる嬉しさ、出来るという誇り、自然な談話がある生活はグループホームの長所であり、画一に成らないよう工夫した支援に努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地の一角にあり、周辺には公園、保育所、大型ショッピングセンター等があり日常生活が実感できる環境にある。公園までの散歩道で地域住民とふれ合う機会も多く、地元町内会と事業所の共催事業である秋祭り行事も定着し、子供から高齢者まで多くの参加を得ながら交流が図られ、新たな馴染みの関係が築かれつつある。今後中学生・高校生・専門学校生との交流にも取り組んでいきたいとしている。職員は「みんな笑顔で楽しく暮らせる日々」を目指し、家庭的な雰囲気で職員と利用者がコミュニケーションを図りながら、お互いに助け合い協力し合い心穏やかに過ごすことが出来るよう日々の支援に努めている。職員不足が続いていたがその解消が見込まれることから、今後更にサービスの質の確保・向上が期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に当時入所していた利用者様の言葉をヒントに「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」という理念を掲げた。日々それが実践できるよう努めている。	「みんなが笑顔で楽しく暮らせる日々」を具体化したものとして「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を理念に掲げ、毎日朝礼で唱和し共通認識を図りながら日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。秋祭りを地域と共催でおこなっている。近隣の保育所とも交流がある。	町内会に加入しているほか、駐車場をメイン会場にした秋祭りを事業所と地域の共催事業として開催し大勢の参加を得て交流を図っており、近隣の保育所の七夕会にも参加している。散歩で近くの公園に出かけた際は挨拶を交わし合うなど顔なじみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて消火器使用訓練を開催。数年前の避難訓練では地域住民様に車椅子操作方法を学んでいただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組み状況の報告から様々に話題が広がる中で、今後のホームの取り組みにフィードバックできる案もでてくる。	区長や民生委員、支所の担当課長、利用者、家族で構成しており、利用者家族には全員に開催を案内している。利用者の状況や事業所の活動、職員の状況などを報告し意見、助言をいただき運営に反映するようにしており、秋祭りや保育所との七夕会交流の実現に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。困難な問題に対して地域ケア会議を開催していただいたことがある。	認定更新に関わる相談や利用者の状況などの情報を共有しながら助言、協力を得ている。相談内容によっては地域ケア会議を開催するなど適切に対応していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、それ以外の身体拘束は基本的にありえないとし、職員が共通認識を持っている。	身体拘束をしないケアの実践に関する事業所マニュアルを管理者が作成し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するケアに取り組んでいる。スピーチロックについても職員間で注意し合い、拘束のないケアの実践に努めている。外出願望の利用者には寄り添うケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に、ありえない事柄であるとし職員は勉強会を通じて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある利用者様は現時点ではいらっしゃらない。制度の理解を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの間、不安や疑問点に対しての連絡を取っている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、またその可能性が出てきた際もあらかじめ説明し、相談をしていただけているようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。家族や面会者にも意見が出しやすいよう、質問箱の設置やケアプラン更新時に意見、質問の記入をお願いしている。	家族からも意見や要望を話しやすいような環境づくりに配慮している。サービス計画に対する意見、質問を①評価、分析に対する質問・意見②計画に対する意見③介護に対する希望の3項目に分け、独自の用紙を作りプランと一緒に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共に介護業務に入り、介護現場の把握に努めている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	スタッフ不足が続き、定例的な職員会議に代え管理者も職員と同様現場に入り「申し送りノート」から意見等を把握し、必要に応じて個別に職員意見を聞くよう努めていたが、近々職員不足の解消が見込まれることから、今後は職員会議を開催していきたいとしている。	運営について職員の声に耳を傾け活かしていくことは、職員のやりがいにもつながるものと思われるため、職員の声を聞く機会を確保しつつ職員間のコミュニケーションを大事にしながら意見等を言い出しやすい環境づくりに取り組まれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時に休日希望を全職員に尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な考え方やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、自己トレーニングを促すため段階的に責任を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社運営のグループホームが同市内及び隣町にもあり情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態と判断され、申請時にお話いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と共に摂る。日々の業務の中で常に談話する機会がある。茶碗拭き、洗濯干し・たたみなど利用者様が主体の家事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診援助を御家族様にさせていただき利用者様が居り、通院後に共に外食をされたりすることが生活の楽しみとなっている。また定期的に自宅に外出する利用者様も居り状況報告を家族からもいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の親戚や友人等の面会や外出も自由に受け入れている。地域との共催の秋祭りを機に、これまで疎遠になっていた親戚や旧友との交流が再び活発に成るケースもあった。	昔から交流があった方との面会や行きつけのお店、演舞観賞、温泉に行けるよう配慮している。また、近隣の美容室や住民との新たな馴染みの関係が築かれつつある。利用者の希望はすぐに実行につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境や共同作業を砂がしていく中で、利用者様間でも助け合いが日常となり。職員も加わり協力意識が定着している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	談話の中から希望や意向の把握は常時行なっている。リスク管理を検討した上で出来るだけ希望に沿った支援をしている。	利用者一人ひとりに寄り添いながら時間をかけて信頼関係を築き、日常の動作や表情、普段の会話から「何をしたいのか」「なぜしたくないのか」を読み取るようにし、職員間で確認しながら支援につなげている。	「サービス計画に対する意見、質問」の用紙を活用していることは、本人、家族の思いを理解することに繋がっている。そこから把握したことと現場での気づきを職員全体で話し合い、利用者視点に立った支援に活かしていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は御家族様や市町村、利用サービス事業所から情報収集をしている。入居後も継続して情報収集し、失礼にならないよう友人等からも日常会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録の工夫、常に職員が近くにおいて談話できる体制のなかで表情や声のトーンも含めて把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様へは郵送で計画内容素案を提示し、意見を記入しやすい体制をつくっている。	管理者兼作成担当者が利用者、家族、職員との日頃の関わりやケース記録を見ながら評価・分析シート及び介護計画原案を作成し、職員や家族に提示し意見を聞き反映させるようにしている。定期的見直しのほか身体状況、意向の変化に合わせて必要な都度見直しを行っている。	利用者がよりよく暮らすためのプロセスを職員が理解し、共有し合うことを大事にしながら、アセスメントを含め職員全体で意見交換、モニタリングを行い、意見、気づきが反映された計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し申し送りノートも活用し情報共有と考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や様々な都合に応じて、行政への申請代行や保険証関係書類の送付先変更など対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や小規模多機能居宅のイベントに参加している。地域資源の発掘に運営推進会議を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談ののっていただいている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は家族同行を原則としているが、家族同行が難しい場合は職員が代行している。医療機関には、薬の在庫状況や普段の様子を伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない。かかりつけ医院では、看護師に各々の利用者のケアについて助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻りに医療機関に出向いている。看護師等病院関係者と頻りに情報交換をし、関係づくりに繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要が生じた場合は主治医との相談の上、事業所のハード・ソフト面で可能なケアを検討する。	重度化した場合や終末期の対応については、医療行為が必要となるまでは対応するが看取りは行わないことを入居時に説明しており、必要に応じて関係者と話し合い他事業所の紹介を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講している者が多い。救急車の要請なども実践した職員は流れを把握し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に計画し地域住民様にも参加いただく。地元の自主防災会より災害時協力を約束いただいている。	年1～2回 消防署立会いで火災や地震を想定した避難訓練を行っている。秋祭り開催に合わせて実施する避難訓練では地域住民の参加を得ている。地元の自主防災会とは文書を取り交わし、協力体制を築いているほか、災害発生に備え10日分の食糧、介護用品等を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	感情的に成りがちな利用者様方の個性に対して冷静に判断するよう常に指導している。人格や自尊心の尊重等で、職員と利用者様に別はないことを常に忘れずに支援をするよう努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを守るため日頃の言葉かけや対応について注意し合い、申し送りノートでも留意事項を確認し合いながら支援に努めている。特に否定的な言葉は使わないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築、また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ出かけていた利用者様もおり、ご本人の希望に沿って支援している。おしゃれも職員と楽しく話し合っている利用者様がいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の茶碗拭きは利用者様の日課になっている。調理も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。	利用者の力を発揮していただく場面として大切にしており、調理、盛り付け、片付け等職員と一緒にやっている。事業所の畑から収穫した新鮮な野菜を食材にしたり、利用者の希望によってメニューを変更することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々が水分を充分取れる工夫をおこなっている。栄養バランスは栄養士作成の献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導が必要な利用者様への誘導や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、生活状況の観察からパターンを把握している。	日中は全員トイレでの排泄で、自立している利用者もいるが、排泄チェック表を活用しながら時間やしぐさを見逃さずトイレ誘導している。夜間のみパット使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、水分補給や日々の体操に力を入れている。市販の食物繊維パウダーを料理に加えて工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は暫定の予定者は組むが希望や各自の御予定によって柔軟に変更可能にしており、入浴順番も含め利用者様の希望に添えるよう努めている。	入浴の予定を組み週2~3日は入浴できるようにしているが、一番風呂や午前、午後の入浴希望に沿って支援している。拒否のある時は、洗面所にお誘いして気持ちを切り替えて入浴していただくこともある。しょうぶ湯やみかん湯で入浴を楽しむ機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて落ち着いて就寝できる環境である。日中も滞在場所が居室や和室、ホールなど各々で個々に合わせた場所にて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は処方説明書を全職員が閲覧しやすい場所に備えている。副作用の心配が大きい薬に対しては説明と注意を管理者から指示する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しを日課とする利用者様、夕食の手伝いに毎日1時間近く台所に立っている利用者様等がいる。時間効率よりも利用者様の楽しみや気分転換を優先した支援が成されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	事業所周辺は広い新興住宅地で、散歩すると近隣住民と行き交うことも多く、近くの公園によく出かけている。法人本部からの配車により、産直やお花見、ドライブなどに出かけるようにしている。また、事業所の畑には、様々な野菜を栽培し草取りや収穫作業などで戸外へ出るきっかけとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用差様の執着や能力に応じて現金所持されている利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望や能力に沿って家族に電話をかける支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。	床暖房をとり入れている建物内はほんのり暖かく、天窓からの自然光でリビングや廊下も明るい雰囲気、リビングにはテーブル、椅子のほか畳スペースが設けられ好きな場所でテレビを見たり会話を楽しみながら過ごすことができるよう配慮されている。フロアの飾り付けは、季節を感じるができるよう相談しながら決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのもので持込ただけのようにしている。	洋服かけや整理ダンス、時計など思い思いの品々が持ち込まれ、それぞれが居心地よく過ごせる居室となっている。遺影や電子ピアノを持ち込まれた方もおり、本人の意向を確認しながら利用者が落ち着いて過ごせるような居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		